吹田市下水道事業会計

決算の概要

令和7年度（2025年度）

概　況

（１）下水道使用料に直結する有収水量については、前年度比7万2,922㎥（0.2%）増の4,288万6,957㎥となりました。

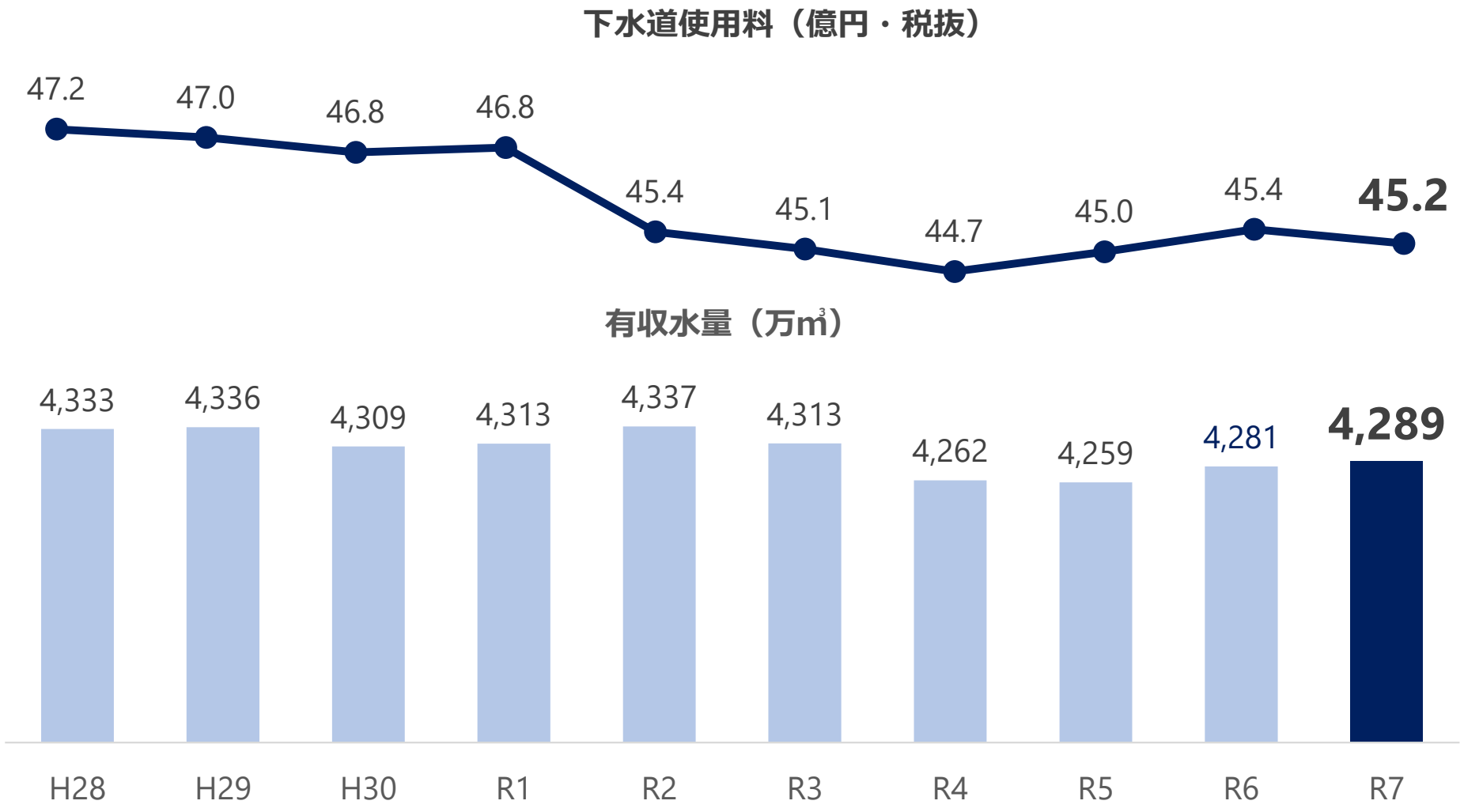
（２）経営状況については、7億8,398万5,570円（税抜）の純利益を計上しました。

（３）下水道施設の設備投資については、下記のとおり執行しました。

（税込）

ア	管渠建設改良費	28億6,704万8,072円
イ	ポンプ場建設改良費	2億8,364万5,000円
ウ	処理場建設改良費	9億3,305万3,834円
エ	流域下水道建設費負担金	1億4,483万6,307円

下水道使用料と有収水量の推移

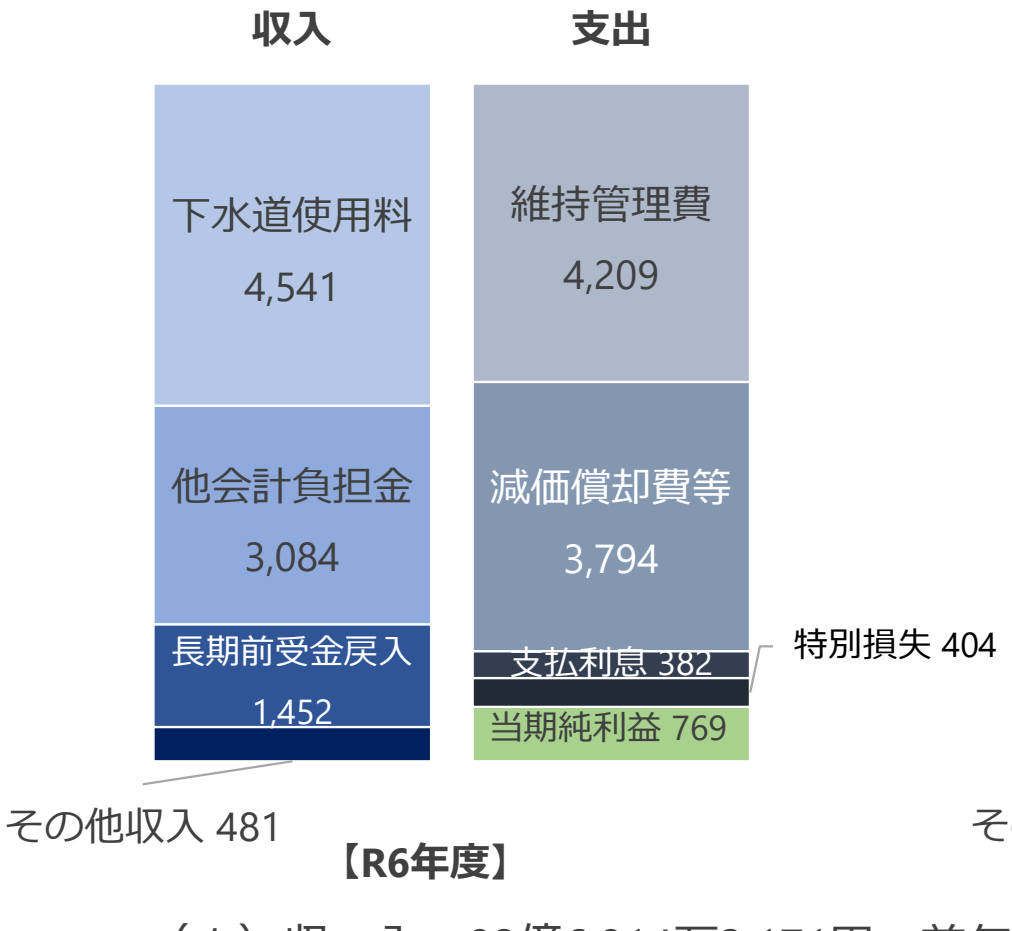


有収水量は昨年度より増加していますが、下水道使用料は減少しました。

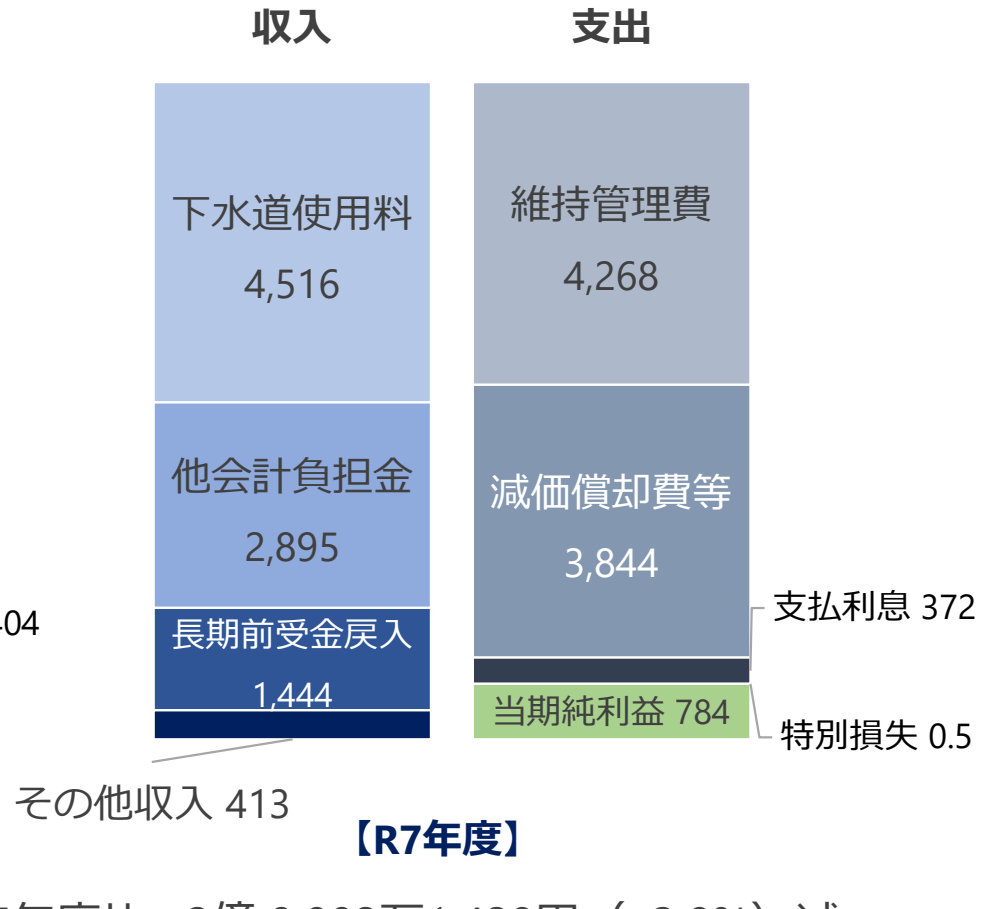
収 益 的 収 支（損益計算書）

下水道サービスの提供に関する収支状況
（経営成績）

（百万円・税抜）



【R6年度】



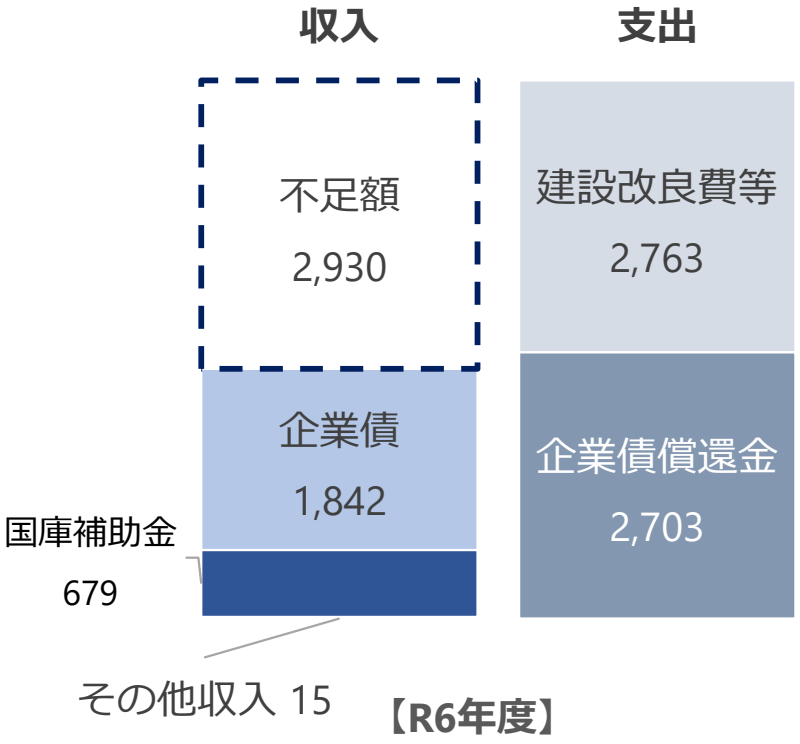
【R7年度】

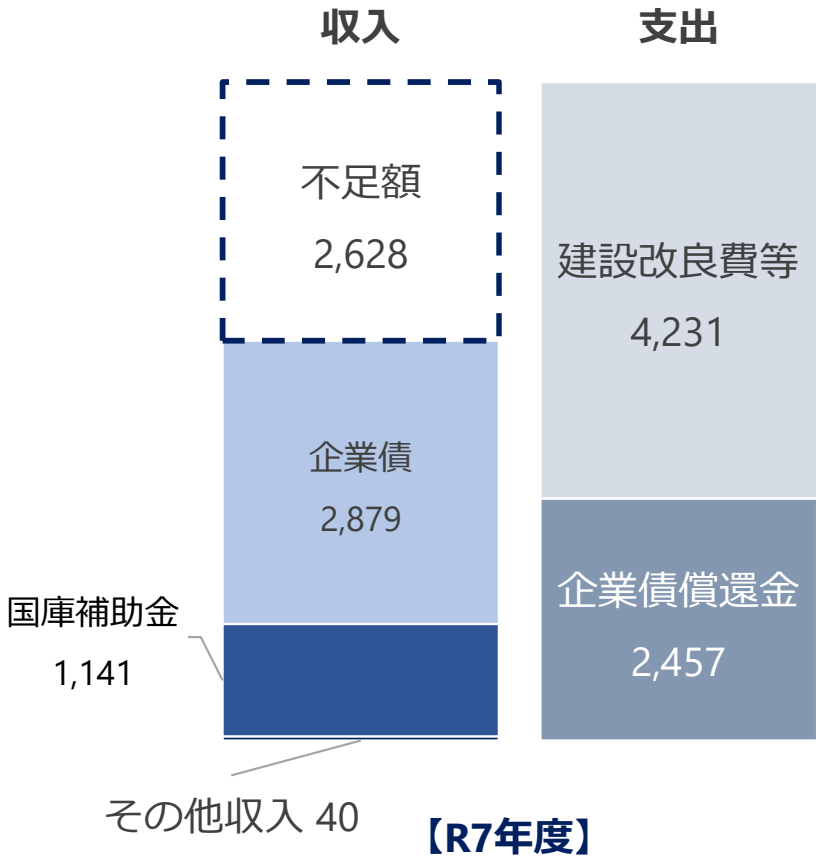
（１）収　入：	92億6,814万3,171円	前年度比	2億 9,002万1,428円	（ 3.0%）減
（２）支　出：	84億8,415万7,601円	同	3億　462万　898円	（ 3.5%）減
（３）純利益：	7億8,398万5,570円	同	1,459万9,470円	（ 9.8%）増

資本的収支

下水道施設の設備投資に関する収支状況

（百万円・税込）



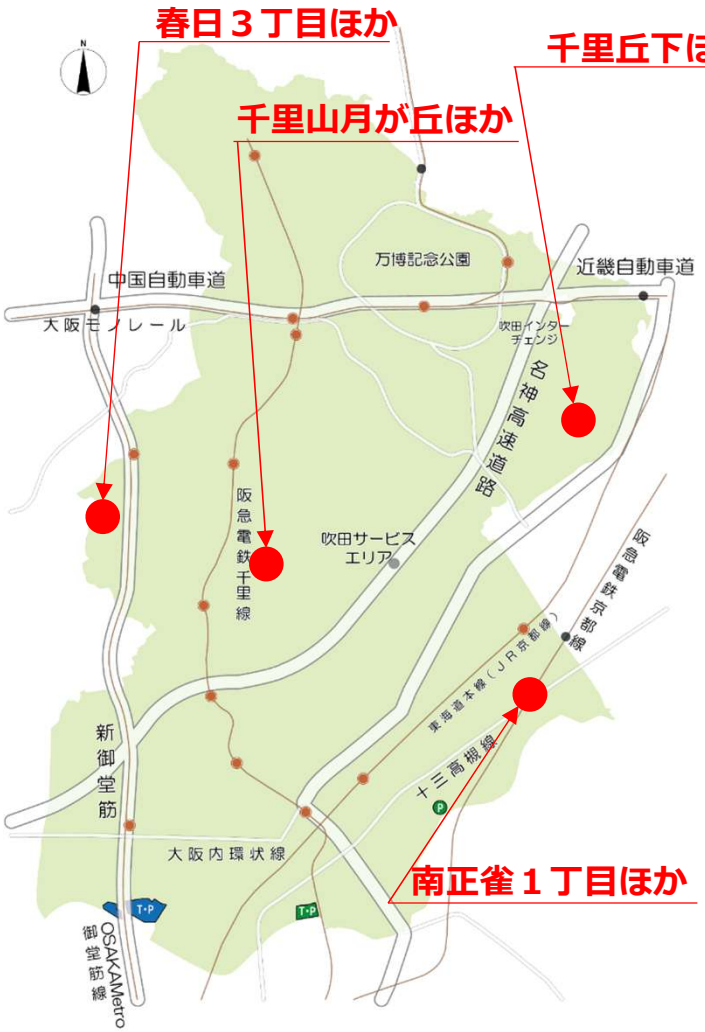


（１）収　入：40億5,938万1,503円
（２）支　出：66億8,766万　22円
（３）不足額：26億2,827万8,519円　※損益勘定留保資金などにより補てん

主な建設改良工事

浸水対策

市内で行っている主な浸水対策工事



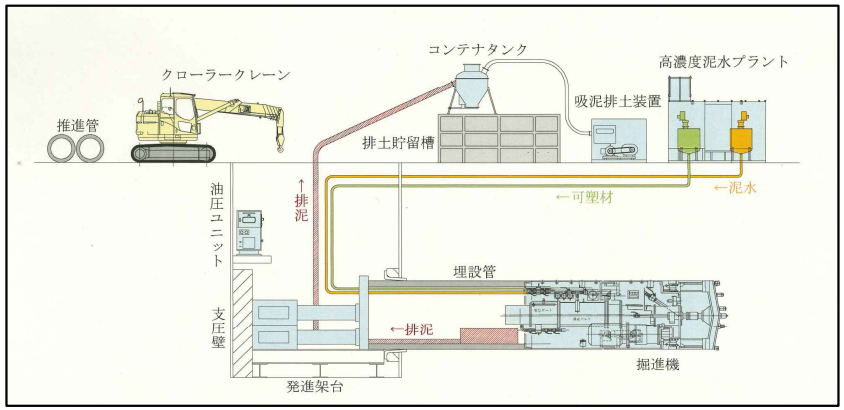
市内各箇所で浸水対策工事を行っています。吹田市は全域が市街化区域であり、多くの工事はシールドや推進等のトンネル工法を用いて雨水管の整備を行っています。

工事名	概要	工期
千里山排水区雨水幹線 整備工事第１工区	雨水管整備(推進工法) Φ1,350mm、 L＝540m	R5.8.8 ～ R9.9.30
春日排水区雨水管路 整備工事第１工区	雨水管整備(推進工法・開削工法) Φ250～1,000mm、 L＝360m	R5.10.12 ～ R7.9.30
千里丘排水区雨水管路 整備工事第１工区	雨水管整備(推進工法・開削工法) Φ500、800mm、 L＝290m	R6.8.6 ～ R8.6.30
岸部幹線整備工事 第１工区	雨水管整備(シールド工法) Φ2,800mm、 L＝580m	R4.5.31 ～ R7.6.30

【春日雨水管路整備工事】推進マシン



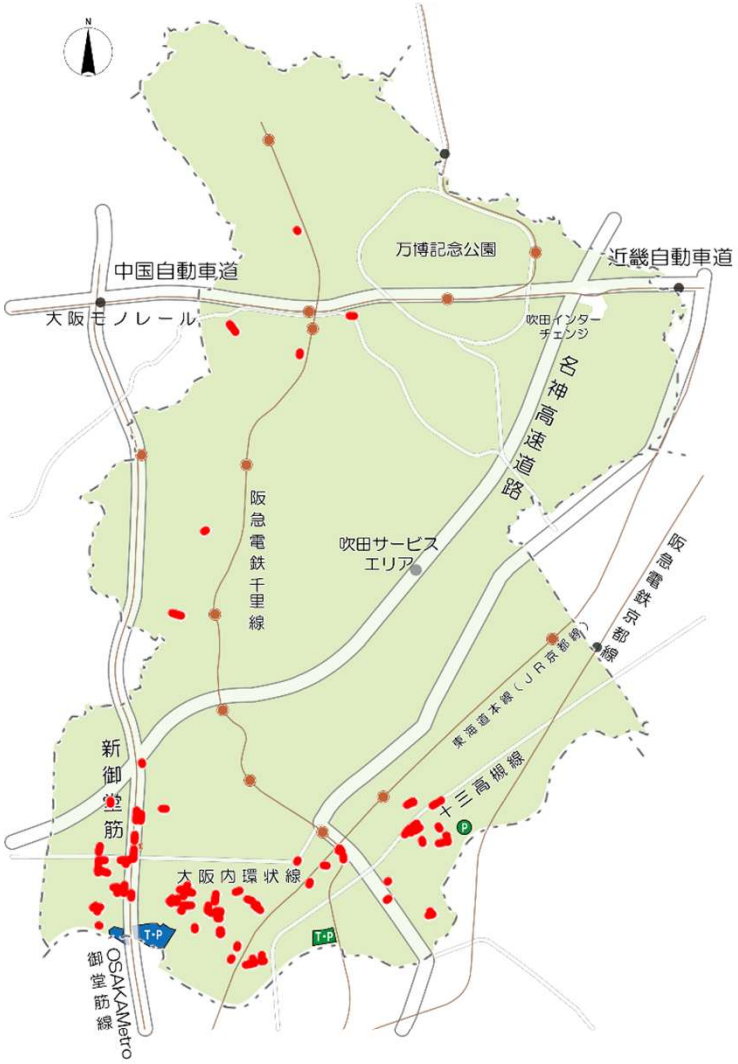
泥濃式推進システム概要図



主な建設改良工事

老朽化対策

下水道ストックマネジメント計画に基づく管路老朽化対策工事（令和4年度から実施）



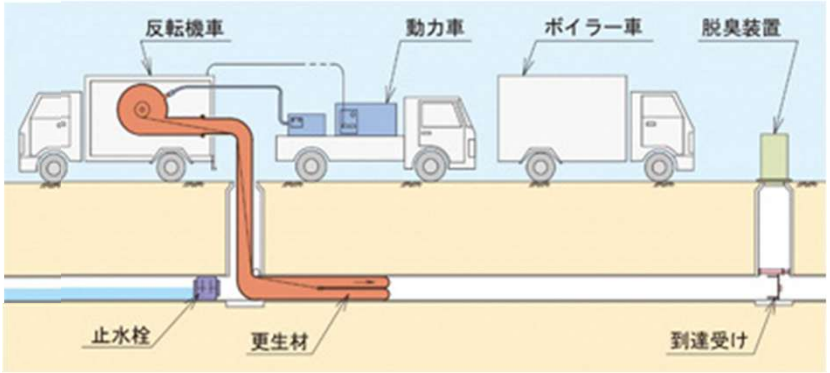
管路老朽化対策実施工事位置図
（令和７年度分）

令和７年度

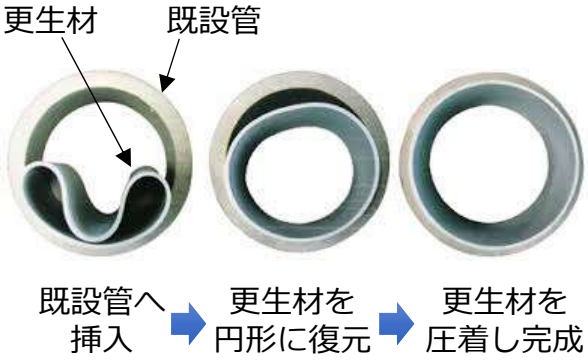
実施延長：3.35km（管更生工事：反転・形成工法）
対象管径：Φ250mm～Φ600mm

下水道ストックマネジメント計画に基づき、吹田市が管理している下水管路を対象に、維持管理方法を「発生対応型」から「予防保全型」へとシフトし、計画的な点検と調査による改築更新を進めています。

改築工事では主に道路掘削を伴わずマンホールから材料を挿入して管内部に新たな管を築造する「管更生工事」を行っています。



管更生工事イメージ図
（反転工法の例）



既設管内部の更生イメージ図
（形成工法の例）

主な建設改良工事

地震対策

下水道総合地震対策計画に基づく管路地震対策工事（令和3年度から実施）



管路地震対策実施工事位置図
（広域緊急交通路下）

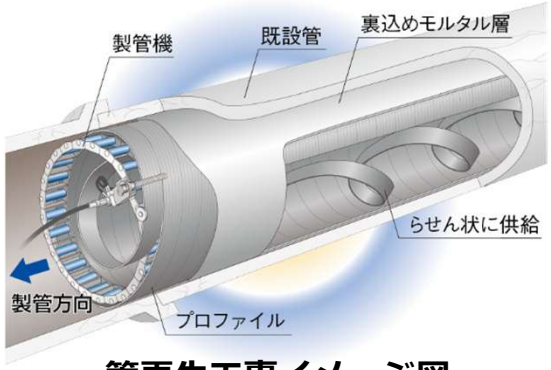
令和７年度

実施延長：0.27km（管更生工事：製管、反転工法）

対象管径：Φ350～Φ700mm

吹田市下水道総合地震対策計画に基づき、緊急輸送路のうち、広域緊急交通路下に布設されている管路を優先し、耐震診断・耐震設計・耐震工事を行っています。

(広域緊急交通路：豊中摂津線、南千里茨木停車場線、
市道桃山台41号線)



管更生工事イメージ図
（製管工法の例）



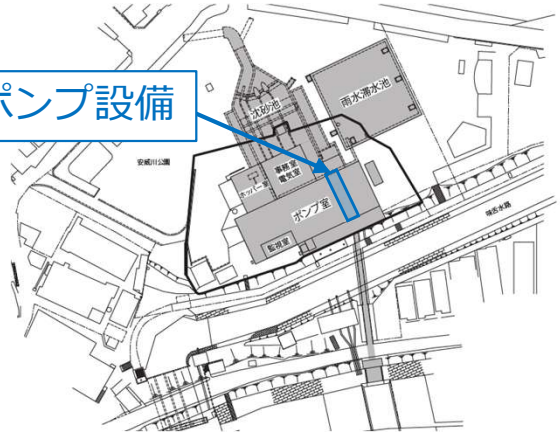
管更生工事の施工中・施工後の状況写真
（製管工法の例）

主な建設改良工事

老朽化対策

吹田市川園ポンプ場No.2雨水ポンプ設備工事
（令和６年度～令和７年度）





■ No.2雨水ポンプ設備



▲ 施工前



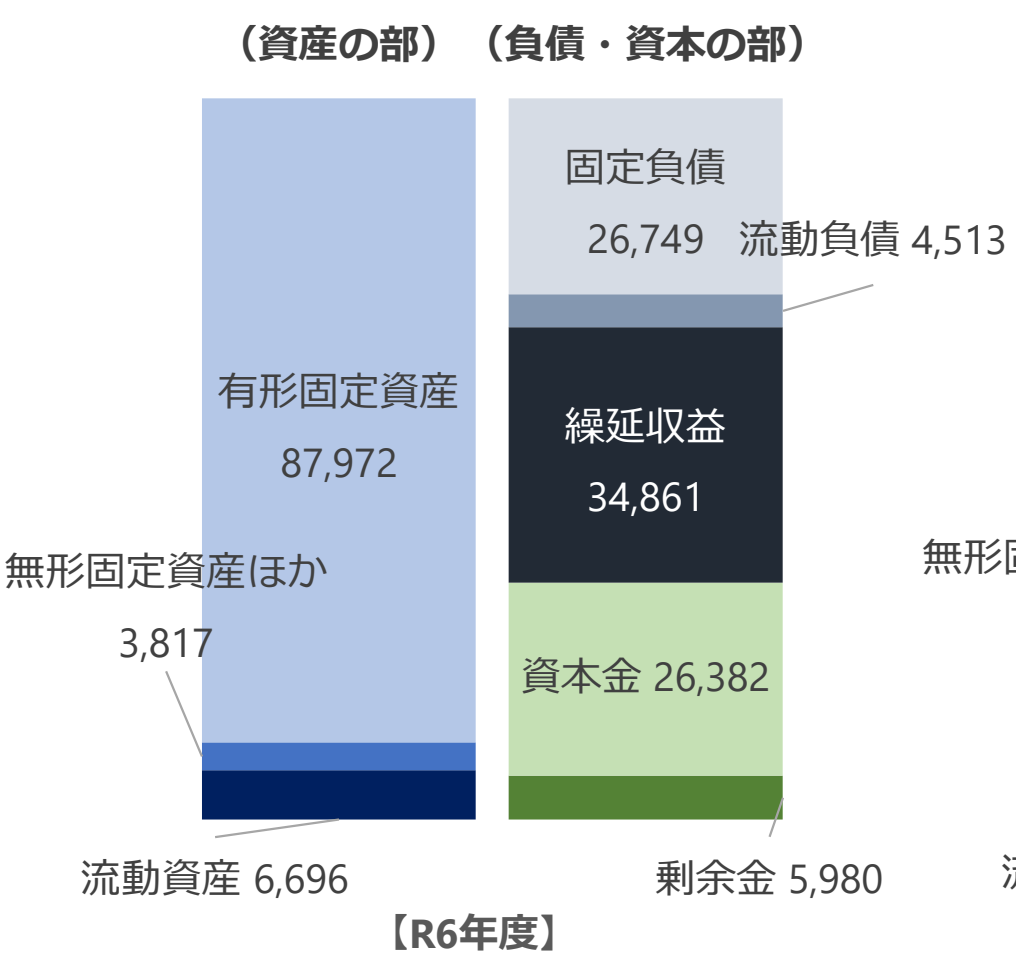
▲ 施工後

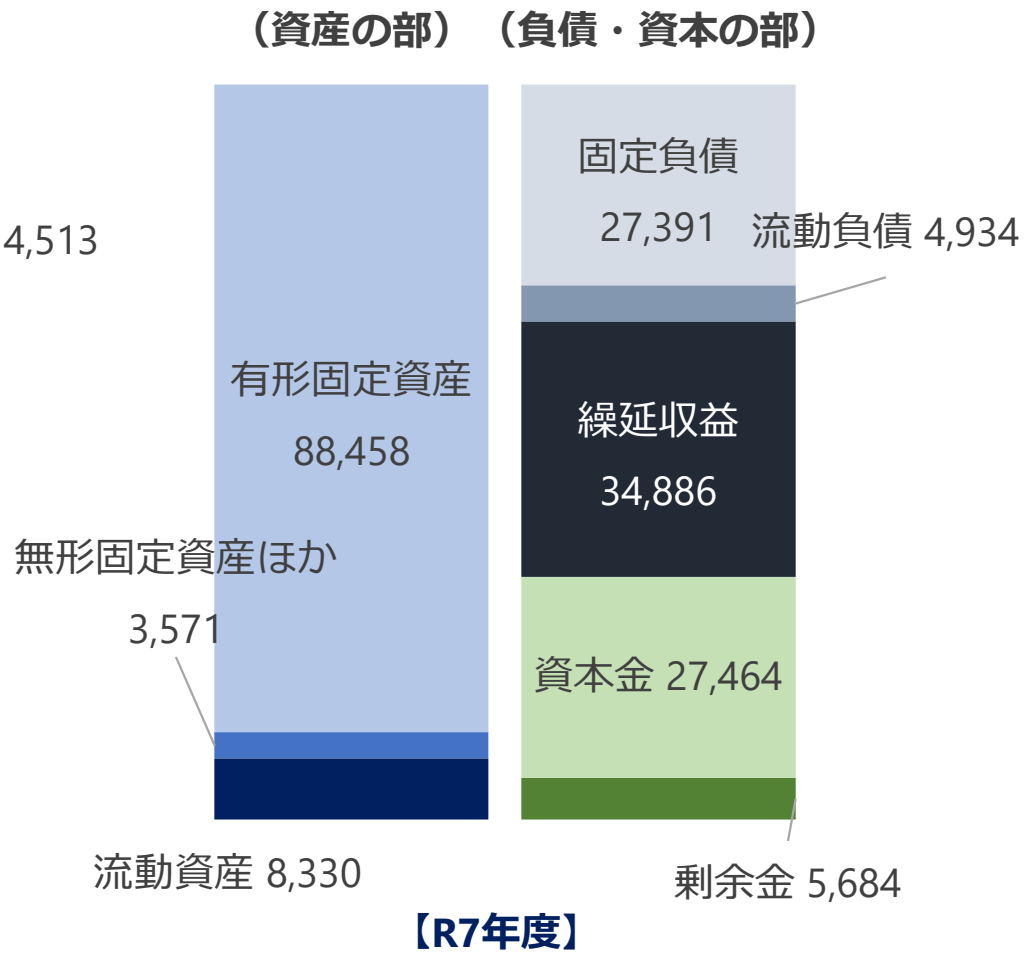
降雨時に川園ポンプ場に流入した大量の雨水を河川に放流する雨水ポンプ設備（昭和43年（1968年）設置）を吹田市下水道ストックマネジメント計画に基づき更新しました。

貸借対照表

期末時点の保有財産の状態（資金の調達状況、運用状況）

（百万円）



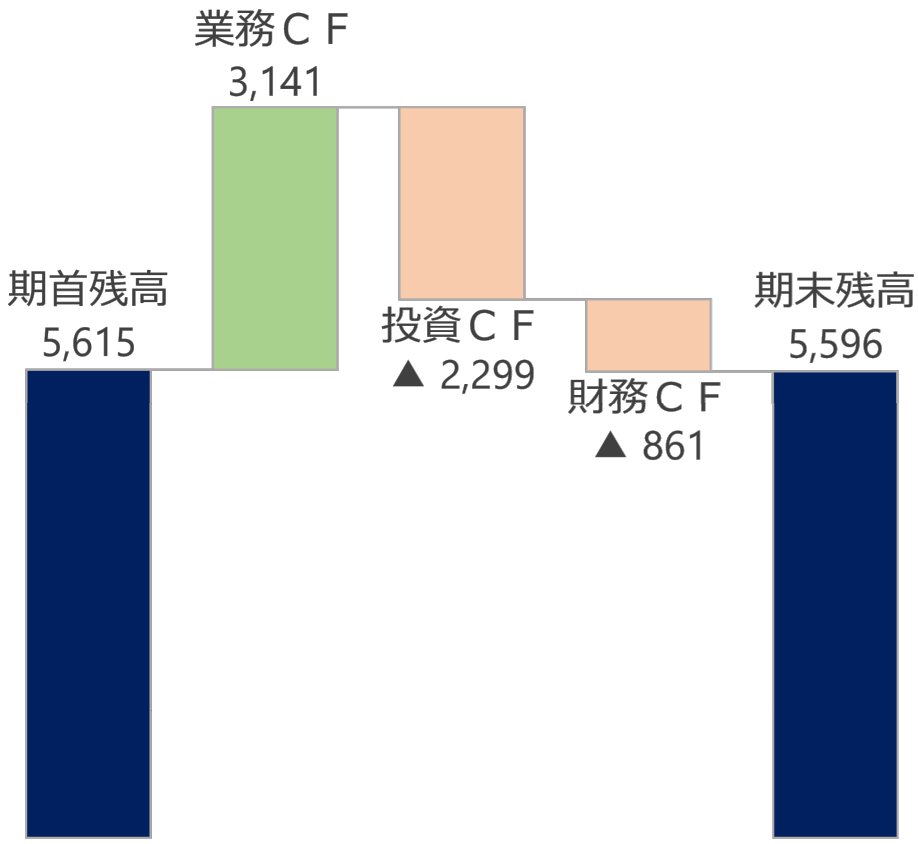


期末時点における資産、負債及び資本の状態を表したものです。
下水道管渠や処理施設を有する下水道事業では、有形固定資産の割合が高くなります。

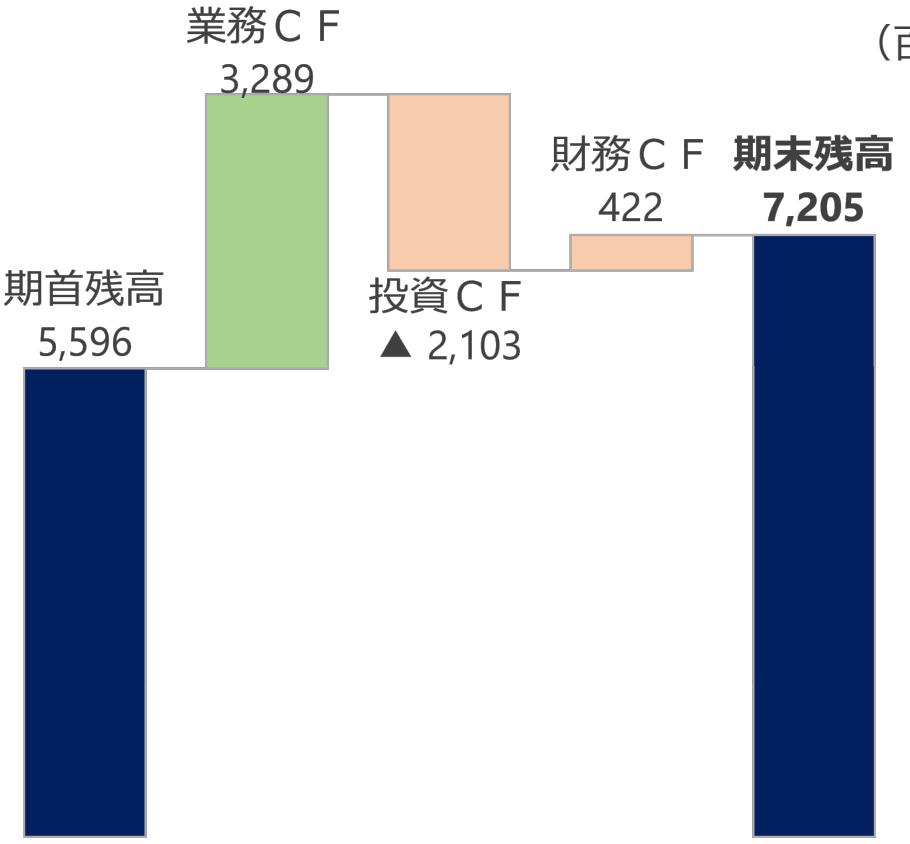
キャッシュ・フロー計算書

現金の流れ

（百万円）



【R6年度】



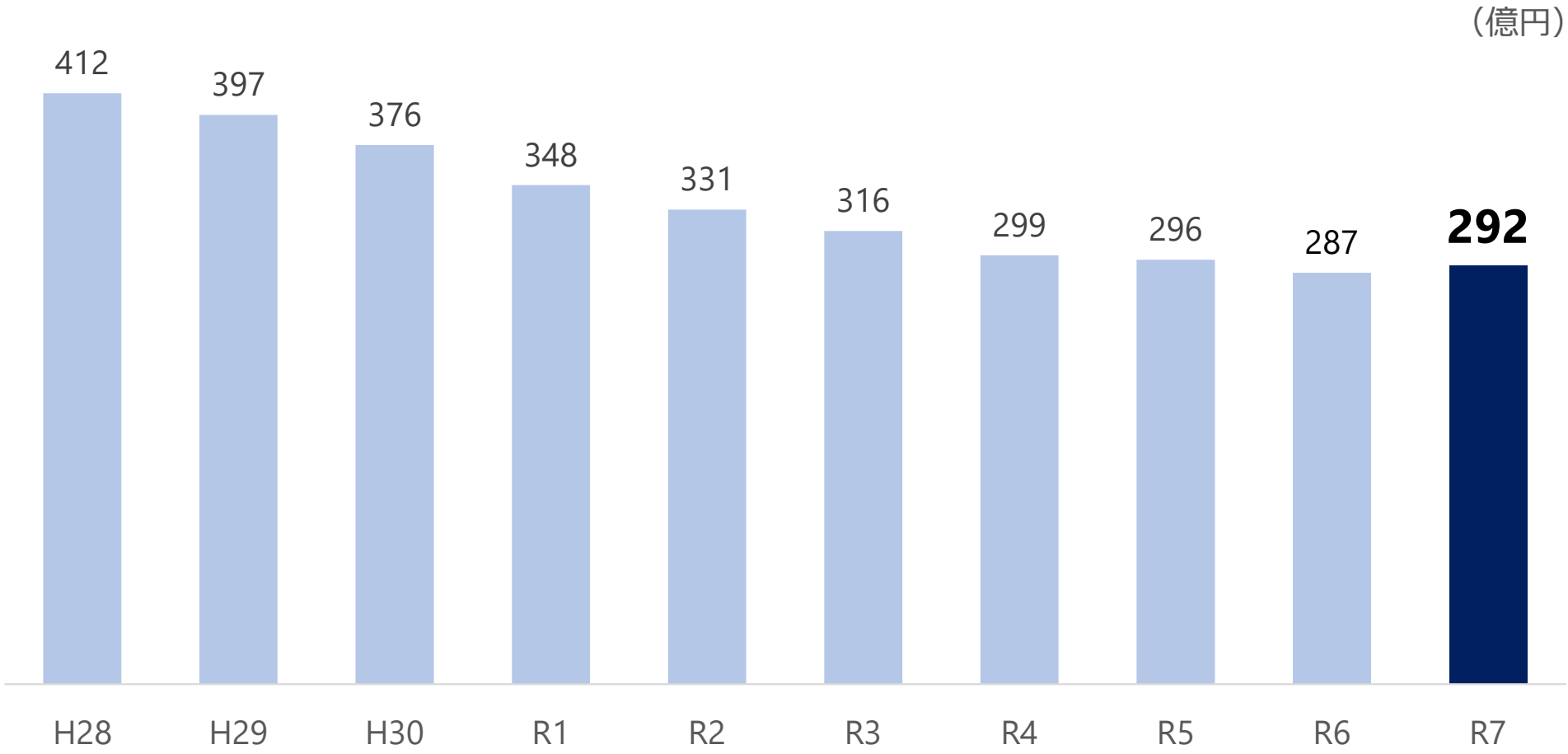
【R7年度】

事業年度における現金の収入・支出（資金の流れ）を表したものです。
主に財務活動による資金がの増により、期末残高は前年度末と比較して増加しました。

（１）業務ＣＦ：本業（下水道の維持管理）の活動による現金の増減
（２）投資ＣＦ：投資（下水道施設の新設や改築など）による現金の増減
（３）財務ＣＦ：資金調達（企業債の発行）と返済による現金の増減

企業債残高

設備投資の財源として借り入れた借金残高



比較的早期に事業に着手したこともあり、近年は減少傾向にありましたが、老朽化した施設の更新や浸水対策などへの投資に伴い、前年度より増加となりました。